

うなぎの街プロジェクト

該当SDGs：2飢餓をゼロに、3すべての人に健康と福祉を、 9産業と技術革新の基盤をつくろう、14海の豊かさを守ろう

教 員：准教授 伊藤慎弼
参加学生：上田真誠、中村夏大、桜井汰朗、内野里穂、
河原崎賢治、河守創汰、塚田陽己、中野朱莉、東端輝、森下空。
*太字は、中心メンバー

1. 活動の目的及び対象

・浜松市は、過去10年連続で鰻蒲焼きの年間購入量日本一を達成している他、菓子産業や農業に至るまで鰻を利用していることから浜名湖地域を「うなぎの街」と呼称することも可能である。一方、うなぎは高価であることから、日常の食卓に出ることはそう多くはなく、近年の価格の高騰から若い世代にはなじみにくいものとなりつつある。このような中で、**浜名湖とうなぎの認知度の向上と地域活性化に貢献すべく**浜松学院大学の学生と教員による「浜松学院大学うなぎの街プロジェクト」（以下：うなぎの街プロジェクトと省略）を行った。

2. 活動内容・方法

うなぎの街プロジェクトの主な活動は、以下の5つである。

①まちなかワクワクアカデミー：2024年8月3日（土）にソラモで行われた野外教室まちなかワクワクアカデミーのイベントにうなぎつかみ取り体験を子ども向けに実施。

- ・方法：体験とクイズ
- ・対象：子ども及び親子連れ（小学生～中学生）

②市民交流フェスタ2024：2024年9月21（土）にイオンモール浜松志都呂で行われた「市民交流フェスタ2024」へ参加し、うなぎクイズを実施。

- ・方法：クイズ
- ・対象：大人子ども全て

③第22回浜名湖うなぎまつり：2024年11月3日（日）には、浜名湖ガーデンパークで行われた第22回浜名湖うなぎまつりに参加し調査を行った。

- ・方法：お客として、お祭りに参加し、どのような内容のお祭りをか調査した。

④浜松学院大学うなぎの街プロジェクト展示&アンケート：2025年2月12日（水）～16日（日）は、MEI COFFEE&GALLERYにて「うなぎの街」こども絵画コンクールの作品29点の展示を行った。

- ・方法：展示とアンケート調査
- ・対象：ギャラリーへの参加者全て

⑤①～④の内容をまとめた小冊子「浜松学院大学うなぎの街プロジェクト」の作成。

3. 活動成果

①まちなかワクワクアカデミー：リピーターを含め約140人もの親子が参加し、客足が途絶えることはなかった。初めてウナギに触れるという子どもが多く、興味を持ってうなぎを触っていた。クイズには親子で真剣に回答してもらい、うなぎについての興味と関心を持つきっかけとなった。

②市民交流フェスタ：①のまちなかワクワクアカデミーで出したクイズに新たなクイズも加え、

参加者へ回答してもらった。大人子ども含め、全問回答者は少なかったことから、参加者には、クイズを通して、うなぎの生態についてより深い知識を身につけることが出来た。

③第22回浜名湖うなぎまつり：浜松市の養鰻業の方から教えて頂いたうなぎまつりがどのような内容なのかを把握するために実際にまつりに参加した。参加者は、担当教員の伊藤、学生は、上田（3年）、桜井（2年）の計3名であるが3名ともうなぎまつりは、初めての参加。内容は、うなぎ弁当の販売、子ども限定のうなぎのつかみ取りとそのうなぎをその場で焼いてくれるサービス（市場価格より安い）、高校生による透明骨格標本の販売、ペット用のうなぎの試食、よさこい、有名人によるトークショー、他市のうなぎの取組みの宣伝と盛りだくさんの内容であることがわかった。

④浜松学院大学うなぎの街プロジェクト展示&アンケート：MEI COFFEE&GALLERYにて、「うなぎの街フェスティバル」（in 浜松学院大学：2024年12月15日開催）時に行ったこども絵画コンクール（於 浜松学院大学）の作品の中から29点の絵画（小学生高学年）の展示を行った。その他には、うなぎ関連の新聞記事や③のうなぎまつり、浜名湖うなぎの新ブランド「でしこ」の説明なども行ったが、浜名湖とうなぎに対してより興味と関心を持ってもらうきっかけになった。なお、上記の第22回浜名湖うなぎまつりとうなぎの街フェスティバル」の認知度について把握するべくアンケートを行ったがほとんどの人がうなぎまつりを知らないことがわかった。回答者は、22人と少ないが、うち18人がうなぎまつりについて知らない（うち県外2名）ということが把握できた事は、ネガティブ情報であるがまだ情報発信の必要性があることがわかった。

・まとめ：学生の積極的な参加のお陰で、4つのイベントを通して浜名湖とうなぎとの関わりや愛着を地元民に持って貰うという点に関しては、僅かながら、本プロジェクトの成果といえよう。しかし課題もある。本プロジェクトでは、SDGsの2飢餓をゼロに、3すべての人に健康と福祉を、9産業と技術革新の基盤をつくろう、14海の豊かさを守ろうという4つの目標と関連付けて活動をする予定であったがどの目標においても明確な結びつきを持った活動にまでは至らなかった。

4. 今後の展開

・SDGsの2飢餓をゼロに、9産業と技術革新の基盤をつくろう、14海の豊かさを守ろうという3つの課題に絞り、上記の3つがどのように関連しているかについて学生とともに以下のように展開していきたい。

・今回作成したうなぎの街プロジェクトの小冊子を協働センターや公共機関、まちづくり関連団体、2024年12月15日にうなぎの街フェスティバルを共に行った高校、専門学校、その他関係者に広く配布することで、うなぎの興味関心の普及活動に努めていく予定である。

・2025年7月下旬から8月上旬予定のまちなかワクワクアカデミーへの参加も決まっているので、昨年行ったうなぎのつかみ取りの他に環境保護についてもより深い知識を身につけてもらうよう取り組む予定である。なお、使用したうなぎをこども食堂に提供し、食育と併せて展開していく予定である。その際、教員のみならず、参加学生においてもうなぎについての生態や産業等についての基礎知識を身につけ人に伝えられるようにしていくことを考えている。

写真1：まちなかワクワクアカデミー



ソラモにて

写真2：小学生絵画コンクール展示



MEI COFFEE&GALLERYにて